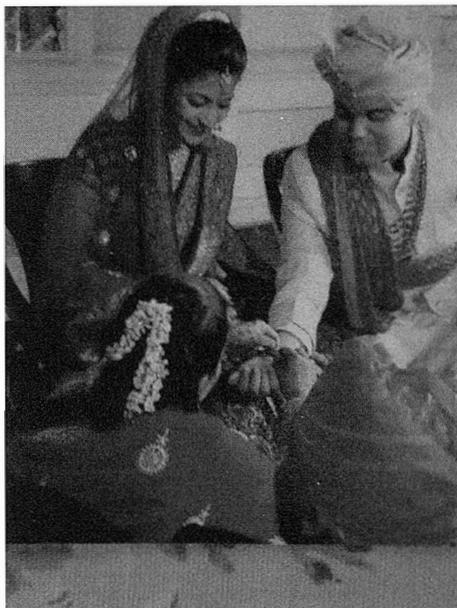


## 理想的な生活

古代インドでは人の一生の理想的な生活方法として 四住期をあげている。

学生期 師のもとでひたすら学業に努める  
家住期 結婚し子供を育て、正しく祖先供

養を行う



新郎新婦

林住期 森に住み修行する

遊行期 一定の住まいを持たず乞食し歩きまわる

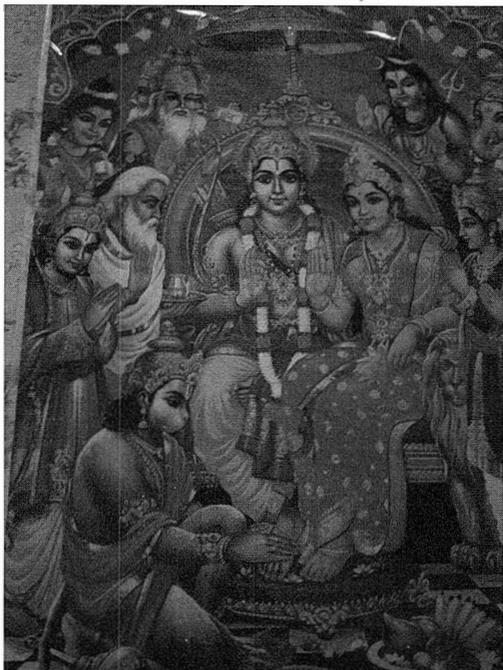
各々の時期に努めるべき行動と義務は詳しく定められており、正しく日々を過ごすことが求められる。そして、古代インドではダルマ(宗教的義務)、アルタ(財産)、カーマ(性愛)を満たすことが理想の家庭生活とされた。

釈尊もこの方法に従い、勉強にはげみやがて結婚する。妃の名前をヤシヨードラと伝えるものが多いが、単に子供ラーフラの母と呼ばれていることもある。

ちなみにラーフラは「月を食べる悪魔(日食、月食)」とされるが、現在でもこの名が一般に使われているので、他の意味があるのかもしれない。

そして、母であるヤシヨードラは釈尊出産後七日後になくなり、釈尊は王の後妻マハープラジャーパティに育てられたと伝えられる。さて、家長として心がけなければいけない

神様の結婚



ことの第一は、殺生と盗み、嘘をつくこと、他人の妻に近づく事をしてはいけない、ということであると。これは出家者に対する戒と同じ。

次に、太陽が昇ったあとでも寢床にある（寝坊する）、鬭争にふける、悪友と交わる、物惜しみ、賭博、酒を飲み夜中に出歩くこと、これらは人を破滅に導くとされる。

一方、為すべきことは財産の四分の二を農業と商業に、四分の一を自分で使い、残りの四分の一を貯蓄せよ、とする。

特徴的なのは、夫が妻に奉仕する五つの項目で、尊敬すること、軽蔑しないこと、權威を与えること、金銀の装飾品を与えること、そして他の婦人と出歩かないこと、である。これに対し妻は仕事をよく処理し、親族を良く持てなし、主人以外の男性に心を奪われないうこと、財産を保護し、勤勉であることが求められる。つまり、男女平等の考えが強調されている。

こうしたことがしっかり守られれば理想的な生活となることは間違いない。

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドテリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書は『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。